

事業所の概要表

(令和 元 年 7 月 1 日現在)

事業所名	グループホーム 丸の内はとぽっぽ					
法人名	医療法人 三善会					
所在地	宇和島市 丸之内 1丁目 4番 7号					
電話番号	0895-24-1002					
FAX番号	0895-24-3722					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日					
建物構造	☐ 木造 ☒ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (1~2) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 1 人 女性 17 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	5 名	要介護2	5 名
	要介護3	2 名	要介護4	3 名	要介護5	3 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	3 人	10年以上	9 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 4 人 介護福祉士 6 人 その他 (栄養士 ヘルパー1級 ヘルパー2級 認知症ケア専門士)					
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	永木歯科 善家脳神経クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 5 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり	1,160 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等)	
	☒ その他 (ドライブ時外食をしたり、出前を取ったりもあります。)	
その他の費用	・ 水道光熱費	13,000 円
	・	円
	・	円
	・	円

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 1 回) ※過去1年間	
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者 ☐ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民
		☐ 利用者 ☒ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等
	☐ その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年7月30日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	16	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	7		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870300690
事業所名	グループホーム 丸の内はとぼっぼ
(ユニット名)	青鳩
記入者(管理者)	
氏 名	清水 素美子
自己評価作成日	令和元 年 7 月 1 日

【事業所理念】※事業所記入 お一人おひとりがその人らしく生活が出来るよう支援します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・ パット置き場の位置を変えることなく、今まで通りに便利に使いながら目立たないように工夫してみました。 ・ その方のニーズにそった介護が出来ているかの確認ができやすい記録に工夫してみました。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 運営推進会議時、外出先について、参加者から「馴染みの場所への外出が良い」とアドバイスがあった。また、花がきれいな場所を教えてもらい支援につなげ、報告したような事例がある。 ドライブが好きだが、乗り物酔いがある利用者があり、家族や医師と相談して酔い止め薬を使用したり、家族も一緒に出かけるなど、本人が外出を楽しめるよう支援した事例がある。 家族には、ユニットごとに毎月、写真を載せた便りを作成して行事や日頃の様子を報告している。また、1日1行暮らしの様子を書き、毎月送付している。家族には、誕生会や外出行事などに案内して参加を得ている。食事介助などに来訪する家族がいる。
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	希望や意向の把握に努めていますがすべての方には出来ていません。	○		○	介護計画作成前には、利用者との日頃の関わりの中から知り得た情報を、職員全員が9マスシート(支援を必要としていることにつなげるためのシート)に記入しており、それを計画作成担当者がまとめて把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人はどうかという視点で話し合っています。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に家族の方と本人の思いについて話すよう努めています。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	24時間シートに記録して職員間で本人の思いを共有するよう努めています。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを見落とさないように努めていますが、決めつけてしまう事もあります。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	出来るだけご家族から生活歴や馴染みの暮らし方についてお聞きするよう努めています。			△	職員は、利用者のこれまでの暮らしについてよく知っている。 センター方式の私の生活史シートや私の暮らし方シートに記入するようになっているが、記入量はとても少ない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	お一人おひとりの現状の把握に努めています。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	把握するよう努めています。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	△	表情や行動、会話の中から原因が何かを把握するよう努めています。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	24時間シートに目を通しお一人お一人の過ごし方や日々の変化について把握するよう努めています。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	何を求め必要としているのか本人の視点で検討していますが把握できている方と出来ていない方とあります。			○	サービス担当者会議を行う折りには、職員全員が記入した9マスシートをもとにし、当日の出動職員で話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	本人がよりよく暮らすために必要な支援は何か検討しています。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	課題を明らかにして支援に努めています。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	把握した思いや意向を反映した内容になるよう努めています。				9マスシートと事前に聞いた家族の要望などを踏まえて、サービス担当者会議を行っており、会議時の内容をもとに、ユニットごとの計画作成担当者が介護計画を作成している。 その他関係者の意見やアイデアを反映する事例はほぼない。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	本人からは日々の関わりの中からご家族からは面会時の話の中から職員は全員が意見を出してそれぞれの意見やアイデアを反映して作成しています。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度でもその人らしい暮らし方が出来る内容となっています。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族の協力体制を取り入れた内容になっています。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	お一人おひとりの介護計画の内容を把握して職員間で共有しています。			○	利用者全員の生活の課題に番号を振り一覧表にしているユニットと、介護計画内に番号を振り日々確認しながら支援を実践できるようにしているユニットがある。 介護計画内容に番号を振っており、日々の介護記録には実践した番号を記入している。その記録をもとに、夜勤者が日単位で実践した番号に赤文字で○をつけて記録している。 さらに、日々の支援につながるような取り組みにも工夫してはどうか。 日々の介護記録の様式に欄を設けて個別に記入している。 日々の介護記録の様式に欄を設けて個別に記入しているが、情報量が少ない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿ってケアが実践できているかどうか毎日確認しています。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	支援した内容を具体的に記録するよう努めています。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	お一人おひとり個別に24時間シートに記録しています。			△	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	△	6ヶ月に一度見直しを行っています。			◎	計画作成担当者が一覧表にして期間を管理し、6ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	月に一度現状確認のためミーティングを行っています。			○	月1回のミーティング時には、介護計画に関係なく日々の暮らしやケアについて現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化が生じた場合は現状に即した新たな介護計画を作成しています。			○	骨折などで状態変化があった場合は新たに計画を作成している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月一回 あるいは緊急案件がある場合はその都度ミーティングを行っています。			○	夜勤専門の職員がいるため、月末と月初めと2度に分けてユニットごとのミーティングを行い、ミーティングノートに記録している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見交換がしやすい雰囲気作りに努めています。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時を工夫しています。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	ミーティングノートがあり記録に残して正確に伝えています。			△	申し送りノートには、ミーティングノートでミーティング内容を確認するよう記入しているが、全員が確認したかどうかはわからない。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	伝達ノートで情報を共有しています。			○	家族からの伝言や業務、医療に関することなどすべてを申し送りノートに記入して伝達している。確認した職員はサインするしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での申し送りや伝達ノートで情報共有しています。	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一人ひとりの日したいことを把握して叶えられるように努めています。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	本人が自己決定できるような声かけやかかわり方をするよう努めています。			○	外出先を選んでもらったり、外食時のメニューを決めてもらったり、普段も何が食べたいかを訊いている。買い物と一緒にいく利用者には、おやつを選んでもらったりする機会をつくっている。
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望を表せるよう働きかけていて納得して暮らせるよう支援に努めています。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	介助の必要な方は職員の都合になってしまっている事が多いです。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	買物や散歩、おやつ等の時間等 生き生きした表情を引き出せるような言葉かけをするよう努めています。			○	「いつも～してくれてありがとう」と言葉をかけていた。「もうすぐお祭りがありますよ楽しみにしてくださいね」と話しかけているような場面がみられた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や反応を注意深くキャッチしながら本人の意向に沿った暮らし方が出来るよう支援に努めています。				新聞を広げて、利用者数人で会話できるよう支援していた。
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	言葉かけや態度について常に意識していますが反省するときもあります。	○	◎	△	外部研修時の資料を申し送りノートにはさみ、各自が確認できるようにしている。実名を出さないような記録を行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	言葉かけに気を付けていますが聞こえにくい利用者さんがおられ大きな声になってしまっている時もあります。			○	利用者に対して穏やかに接していたが、時に、利用者の意欲的な行動を止めてしまうような場面が見受けられた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声かけをしてプライバシーに配慮しながら支援に努めています。				この機会を活かして、職員個々が自己チェックなどして常に意識して行動できるようなしくみをつくってはどうか。
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る前にノックして声をかけています。			◎	屋食後、居間のソファで昼寝する利用者には、サイドに椅子を一脚置いて転げ落ちないようにしていた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーの保護や情報の漏えいの防止について理解し遵守に努めています。				利用者不在時にも、居間にいる利用者に許可を取ってから入室していた。
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	有する能力を発揮できるよう共に支え合えるよう支援に努めています。 感謝の言葉かけもしています。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の助け合いを大切に思い理解しています。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握して支え合えるような支援に努めています。			○	服のたたみ方を他利用者に詳しく教えてあげるような利用者の様子がみられた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要に応じてトラブル解消に努め不安にならないよう支援しています。				居間には4つ丸テーブルがあり、シチュエーションに応じてひっつけたり、離したりして使用している。話の合う同士が同じテーブルに座っていた。食後には他者の分まで下膳してあげていた。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	把握に努めています。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	すべてではありませんがお一人お一人の馴染みの場所について把握に努めています。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に出掛けて行き記憶の糸が切れないよう努めています。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居心地よく過ごせるような雰囲気作りに努めています。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	できるだけ戸外で過ごせるよう支援に努めています。 外出する利用者が固定化する傾向がある為に行事としてドライブや外食・季節の花見等をしています。	○	○	○	「盆踊りが踊りたい」という利用者の希望に応じて、地域の盆踊り大会に出かけた。 毎月、外出計画を立てて、外食したり、季節の花を見に行ったりしている。 また、日頃は、スーパーや衣料店などに買い物に行っており、運営推進会議時には、活動報告として支援について報告している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族の協力は得ていますが地域やボランティアの協力は得れていません。				ドライブが好きだが、乗り物酔いがある利用者があり、家族や医師と相談して酔い止め薬を使用したり、家族も一緒に出かけるなど、本人が外出を楽しめるよう支援した事例がある。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日は戸外で気持ち良く過ごしていたできるよう支援しています。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族の協力を得て外出支援をしています。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員間で話し合い検討して最善のケアが出来るよう努めています。				車いすを自走したり、職員の手引きで歩行する利用者の様子がみられた。 歌を歌ったり、3B体操などを行っている。 職員と一緒にカレンダーを切ってメモ帳を作ったり、洗濯物を干したり畳んだりする場面をつくっている。 ほとんどの利用者が食後に自分で下膳をしていた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	その人が出来る事出来ない事を把握して機能維持が図れるよう取り組んでいます。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	全ての方ではありませんが、場面作りを行っています。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	楽しいと思える役割とは何か検討して支援につなげています。				玄關の花を活けてもらうような場面をつくっている。 忘年会や行事の折には、お店から料理を取り、カラオケを歌ったりして非日常を楽しむような機会をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	出来る事出来ない事を見極め 出番を作る取り組みを行っています。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	スーパーへ買い物に行ったりドライブに行ったり楽しく過ごしていただけるよう支援を行っています。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	身だしなみを整えたり有する服で本人らしいおしゃれが出来るよう支援しています。				食べこぼしがある利用者によっては、介護用エプロンではなく、サロンエプロンを着け食事ができるよう支援している事例がみられた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の好みの服装で整えられるよう支援しています。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	表情や反応で判断してできるだけ本人の気持ちにそって支援するよう努めています。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その人らしい服装を楽しめるよう支援に努めています。				髪をうしろでお団子にして束ねている人がおり、職員は「よく似合っている」などと言って声をかけていた。 それぞれにさっぱりした髪型で季節にあった服装で過ごしていた。
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	出来るだけさげなくカバーしています。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望される店がある方はお連れしています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるよう支援に努めています。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解していると思います。				食材を注文して週3回ほど八百屋や魚屋が配達に来ている。 利用者は、下膳したり、食器洗いや台拭きを行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	○	出来る事を出来る方と一緒にを行っています。			○	
		c	利用者ととも買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る事を一緒にに行い利用者の自信や達成感につなげています。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーや苦手なものを把握しています。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって普なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の食材を取り入れています。			○	時に外食したり、料理を取ったりして食事に変化を持たせている。 食べにくそうにする人には、本人に聞いてからキッチンバサミで切って一口大にしていた。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	お一人お一人の状態に合わせてとろみをつけたり刻んだりしていますが盛り付けにも気をつけています。				スプーン、汁椀や湯飲みは大きさと重さ、機能など個々にあわせて用意している。
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の状態に合わせて使用していただいています。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事をしてサポートさせていただいています。			◎	職員も一緒に同じものを食べながらサポートしている。同じものばかり食べる利用者には「野菜も食べてね」と言っすすめていた。食がすすみにくい利用者には「失礼しますね」と声かけし、さりげなく支援していた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンになっていて利用者に音や匂いや会話を楽しめるよう雰囲気作りに配慮しています。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	お一人お一人の状態や習慣に応じて量を調整しています。				居間にいと食事を作る様子が見え、音やにおいがしていた。 昼食は、カフェランチのように一皿に彩りよく盛り付けていた。
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養や脱水にならないよう取り組んでいます。				栄養士の資格を有する職員がカロリー計算を行っている。時にアドバイスがある。
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	月一回カロリー計算をして栄養士にアドバイスを受けています。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板と布巾は毎日ハイターで消毒しています。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが重要なことは理解していて毎食後口腔ケアの支援を行っています。				口腔ケア時に目視しており、異常があれば受診につなげている。 本人が行う人については、本人に任せるケースがあり、訴えがあれば対応している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	お一人お一人の口の中の状態を把握しています。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科衛生士からアドバイスを受け実践につなげています。				介助が必要な人には、昼食後、洗面所に誘導して支援していた。
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯は毎日ポリドントに浸けて消毒しています。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	毎食後口腔ケアを行い口中の清潔を保っています。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	口中の不具合があれば歯科受診繋げ対応していますが、効果が出ない場合もあります。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	自信を喪失せずに気持ち良く過ごしていただく為に紙パンツとパッドで対応しています。				ミーティング時、利用者の排泄状況や職員の気付きなどの情報を持ち寄り話し合いを行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ホワイトボードに記録したパターンを把握しています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	その時々の状態に応じた支援を行っています。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	記録を見て、改善に向けて取り組んでいます。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候に合わせて声かけ・誘導行っています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の意思が確認できない時は どうしたら本人が快適に過ごせるのかを検討して職員が選択しています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	お一人おひとりの状態に合わせて使い分けています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分摂取を勧めたり散歩など運動へ働き掛けて便秘解消に取り組んでいます。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	自立されている方は希望する時間帯に入っていると思いますが介助が必要な方は職員が決めて入浴していただいています。	◎			2日に1回、午前中に入浴できるよう支援している。「一番風呂がよい」「決まった曜日に入りたい」などの希望に応じたり、「入りたくない」人には、時間や日をずらしたりして支援している。一人で長湯する人には、時々声をかけながら見守っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	お一人おひとり個浴でゆっくり入浴していただいています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事出来ない事を見極めて対応させていただいています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず気持ち良く入浴していただけるよう工夫しています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルの確認をして体調を見極めて入浴していただき、水分補給や入浴後の状態も確認しています。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	△	夜勤スタッフからの申し送りや記録から把握しています。				入居時に薬剤を使用している人も、まずは、薬なしで試してみて必要性を検討している。飲んでも飲まなくても同じ状態だったため、服薬中止にして支援している事例がある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中は起きてもらえるように努めています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人の希望で服薬されている方もいますが、出来るだけ頼らない方向で支援に努めています。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室やリビングなどで心身が休めるよう取り組んでいます。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	携帯電話でやり取りされている方も居られます。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙をいただいたときはお礼状を出せるよう支援を行っています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話される方も居られますがほとんどの方が難しくなられています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	音信が取れるよう支援に努めています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	手紙や電話だけでなく、面会に来ていただける様お願いしています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	出来る方はお金を所持していただいでいて買物できるよう支援を行っています。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	スーパーやユニクロへお連れするなどお金を使う機会を日常的に作っています。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	お一人で行くのではなく職員と一緒に買い物しているので協力を得る働きかけは行っていません。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	管理できる方は所持したり使えるよう支援しています。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご家族と話し合って必要な物を購入させていただいています。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月預り金清算書を送らせていただいています。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その時々ニーズに対応して柔軟な支援を行うよう努めています。	◎		○	同窓会に参加する利用者に職員が会場まで付き添い、支援した事例がある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日中は玄関を施錠しておらず気軽に出入りできるよう工夫しています。	◎	◎	◎	駐車場が広く車を止めやすい。 玄関先にはマリーゴールドのプランターを並べていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	季節の飾りつけを工夫して居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	○	◎	◎	庭は日本庭園で手入れが行き届いていた。 室内も掃除が行き届き清潔にしていた。 トイレ内の排泄用品の棚に目隠しをつくり、見た目に配慮していた。 台所のカウンター前のソファや小上がりの畳の間で、昼食後に昼寝する利用者がいた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日リビング・居室の掃除をしています。			◎	不快な音や臭いは感じなかった。 窓から自然光が入り明るい空間となっている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、季節の飾り付けをして居心地よく過ごしていただける様工夫しています。			○	壁面にひまわりの飾りを飾ったり、玄関に七夕飾りを飾ったりしていた。 ベランダに干した洗濯物がレースのカーテン越しに見えていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングや居室で自由に過ごしていただいています。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	ドアのない所はカーテンで仕切り見えないように工夫しています。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた家具や仏壇を持ってきたり居心地よく過ごせるよう工夫しています。	◎		○	テレビを持ち込んでいる人がいる。 カレンダーに食事や入浴したことをわかるよう、しるしをつけている人がいた。位牌にお茶やしきびを供えている人もいた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	場所を分かりやすく大きな文字で表示しています。			○	利用者によっては、居室入口の引き戸に大きく名前を書いた紙を貼っていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	危険な物は見えないところに収納しています。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングに新聞や雑誌を置いて何時でも読めるようにしています。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中施錠しない事をご家族にも説明して了解を得ています。	◎	◎	◎	日中は玄関などに鍵をかけていない。 運営推進会議時に拘束について現状を報告したり、話し合ったりしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中の施錠はしていない事を説明させていただいています。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたさないう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	安全の為外出を察知できるようリビングから出るとチャイムが鳴るよう工夫しています。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	病歴や留意事項は記録に残してあり把握しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	注意深く観察して変化や異常なサインを記録に残しています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	△	医師や看護師に相談できる関係を築いています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	△	希望する医療機関を受診できるよう支援しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	御家族の協力を得ながら、希望する医療機関で適切な医療を受けられるよう支援しています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	本人やご家族と話し合いを行っています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に職員も付き添って受診し情報提供に努めています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	情報交換や相談に応じカンファレンスにも参加するよう努めています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入退院時に協力していただけるよう関係作りに努めています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	情報や気づきは看護職に伝えて相談しています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	急変したり体調が悪い時は協力医療機関へ連絡しています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態に変化がある時は協力医療機関へ報告し適切な対応をしていただいています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬している薬の目的や副作用や用法容量が記載されている用紙を何時でも確認できるようにしています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	お一人ひとり薬箱があり手渡して飲み込むまで確認しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更があったり用量が増えたときは服薬後の体調の確認をしています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態を観察して変化を協力医療機関へ報告しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合はご家族と話し合い方針を共有しています。				この一年間では看取りを支援した事例はないが、入居時に事業所でできることを説明している。その後は、状態変化時に医師や家族と話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合は本人やご家族だけでなく携わるすべての関係者で話し合い方針を共有しています。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	職員の思いがそれぞれ違う事が多々あるので話し合いながら出来る限りの支援に努めています。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	入所時や状態変化時に話し合い理解が得られるよう努めています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族や協力医療機関 職員とで話し合いながらチームで支援していく体制を整えています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	ご家族からの相談を受けたり話し合ったりして心理的支援を行っています。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修で学び 研修内容を職員間で共有しています。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	訓練は行っていますが、万が一発生した場合に備えてマニュアルがあります。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症発生の最新情報を保健所や市役所 インターネット等出情報を入手しています。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況の情報収集に努め対応しています。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	職員は利用者と共に手洗いうがいを徹底して行っており清潔が保てるよう支援に努めています。来訪者に対しては徹底はできていません。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族に生活状態を報告し協力して一緒に本人を支えていく関係作りに努めています。				誕生会や外出行事などに案内して家族は参加している。 食事介助などに来訪する家族がいる。 ユニットごとに毎月、写真を載せた便りを作成して行事や日頃の様子を報告している。 また、1日1行暮らしの様子を書き、毎月送付している。 行事や新しい利用者は便りで報告している。 設備改修や機器の導入については報告していない。 職員の顔ぶれについてや食事に関する取り組みを報告したり、排せつ用品の費用などの詳細なども具体的に報告して、家族との関係をさらに深めてほしい。 事業所では今後、運営に関する内容の報告についても工夫したいと話していた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	訪問し易い雰囲気作りに努めています。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	外出支援に協力していただいたり芋炊きなどホーム行事に参加出来るよう努めています。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。[「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月日々の暮らしのようすやホーム新聞やお便りで具体的にお伝えしています。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時等でお話させていただき不安に感じていることを把握して報告を行っています。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係を築いていけるよう支援に努めています。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	ホーム便りで職員の異動や退職を報告するよう努めています。	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	ホーム行事に参加出来るよう働きかけて交流する機会を提供しています。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	入居や面会時に起こりうるリスクについて御家族に説明して抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っています。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時声かけをして気軽に話したり相談し易い雰囲気作りに努めています。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	出来る限り具体的説明を行い理解納得を得ています。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入所契約時に説明を行っています。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時や料金改定時には説明するように努めています。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	職員は設立段階からの関わりでないで、ホーム行事等に参加出来るよう声かけして交流を図り理解していただけるよう努めています。		◎		職員が清掃活動や総会に参加している。また、夏祭りなど、地域行事への利用者の参加を支援している。 事業所の芋炊き会(9月)には、地域の人も参加している。 水産高校の生徒が実習で訪れており、利用者は年賀状を書くなどして交流している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	お祭りの休憩場所を提供したり日常的なあいさつを交わしたり自治会や地域の活動にも参加しています。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	入居者の友人の訪問等があり、他の入居者へも気軽に声かけして下さっています。またお一人での外出時には見守ってくださったり災害時にはかけつけてくださる方が居られます。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	行事への参加の声かけをしたり、お礼の声かけに来て下さったりしています。利用者の友人の訪問があり他利用者の方にも声をかけてくださっています。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	行事への参加の声かけをしたりお礼の声かけをして下さったりしています。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近隣の美容院が訪問カットに来てくれたり、ボランティアで清掃に来てくれたりしています。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近隣のスーパーや商店街へ出かけて豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援に努めています。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	公民館行事に参加したり、スーパーや理髪店に協力していただいて理解を広げる働きかけに努めています。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	歌の会がある為利用者の参加はありませんが、ご家族や地域の人等の参加があります。	△		△	家族や地域の人は参加しているが、利用者は参加していない。家族は代表者が参加している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告に努めています。			○	活動や事故報告、職員異動の報告を行っている。 外部評価実施後に、評価結果と目標達成計画内容を口頭で報告している。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	外出についてのご意見をいただいて日々の取り組みに生かしたこともあります。		◎	◎	外出先について、参加者から「馴染みの場所への外出が良い」とアドバイスがあった。また、花がきれいな場所を教えてもらい支援につなげ、報告したような事例がある。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	開催日を出席の予定が立ちやすいよう奇数月の第三金曜日に決めています。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	市へ報告書を提出しています。				
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念を掲げていますが目の前の介護で精一杯の時間がほとんどです。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	リビングに掲げていますが地域の人までには伝えられていません。	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修を受けたりする機会はありますが、現在職員が少なく、重度化してきているために余裕がありません。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	必要性は分かっていますが、現在余裕が無く、計画的な取り組みが出来ていません。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	向上心を持って働ける条件を考えていると思いますが、現在は職員の人数も少なく、重度化していて、各自が楽しみを持って働けるような環境・条件とは言えない状態です。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業者との交流の機会はありますが、余裕が無く参加に至っていません。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	常に心配はしていますが、職員の余裕が無く軽減には至っていません。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待は利用者にとって良い結果を招かないと学び、介護の中で不適切ではと気になる事があれば話し合う機会を設けています。				マニュアルを整備していつでも見られるようにしている。 内出血やあざを見つけたような時には、リーダーに報告することを職員は認識している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング等への参加や日頃の介護の中で話し合う機会があります。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	介助中に手すりに当たった等の報告の無い内出血を確認した時には、不適切な介助が無かったか話し合う機会を設けています。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	重度化してきた方の人数が増えてきて、その上職員の疲労やストレスがたまっていても現在の人手不足では解消できない状態です。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ご本人や他の入居者の命にかかわり、他の対策が考えられない緊急事態以外は拘束はいけないう事と理解できています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング時に身体拘束にあたるか又必要な方は居られるかどうか話し合う機会を設けています。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	新しく入居されたい方のご家族に玄関の施錠についての説明と、自由に外出されたときの心配事などを話すように努めています。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修で学んだ内容を報告して職員間で共有し、理解に努めています。以前親族が成年後見人になられた方も居られましたし、こちらからの勧めで成年後見制度を利用された方が居られました。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	利用者や親族でお困りの方が居られた時には相談に応じて勤めるように努めています。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	司法書士・弁護士へ繋げたことがあります。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時には看護師に相談して医療機関につなげています。 毎年救命講習にも参加するようにしています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命講習を受けています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの記録をするようにして、事故につながる事が無いように話し合う機会を設けています。 事故が発生した場合には事故報告書を提出するようにしています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	特に歩行不安定な状態を共有するようにして、皆で気を付けて見守りをするよう努めています。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	各職員が苦情を受けた場合にはユニット主任に報告し管理者と事実を確認して対応するようにしています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合には、速やかに主任・管理者に報告し必要時には市へも相談するように努めています。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談や苦情があった場合には、前向きな話し合いと関係作りにも努めています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の介護の中での利用者の話を聞くようにしたり、お茶の時に利用者同士の話にも耳を傾けて気付けるように努めています。				運営推進会議には参加していない。 日々の会話の中で運営についても訊くことがあるが、機会をつくるという点からは少ない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	契約時・面会時に話を聞くように努めています。意見箱を設けて、相談・苦情担当者も決めていて、運営推進会議での発言の機会もあります。	○			運営推進会議に参加する家族は機会があるが、そのほかの家族については機会が少ない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	重要事項説明書にあり、説明させていただいています。 新しく交付する時に再度の説明になっています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は事業所への訪問時に職員の意見や要望を直接聞く機会もあり、必要時には電話での要望も可能です。				毎月のミーティング時に意見を出す機会がある。 管理者は、日々の中で職員に意見を聴くようにしているが、検討したり、解決することに難しさを感じている。 運営に関する事柄については、法人と話し合ったり、運営推進会議時に意見や提案を聞きながら解決につなげてほしい。
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員一人ひとりの意見や提案を聞く機会には常にありますが、利用者本位の支援をしていくためには職員確保が課題になっています。			△	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価に取り組んでいますが、設問の解釈・理解に困ることがあります。すぐには改善が難しい所もあります。				外部評価実施後に、評価結果と目標達成計画内容を口頭で報告している。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。 さらに、評価結果やアンケート結果を参考にして取り組みに工夫してほしい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	日頃の関わりの学習の機会として、事業所全体の取り組みと職員全員で評価してます。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果が出た後は、実現可能な所を目標達成として話し合っています。そして出来る事から実行しています。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	市や運営推進会議で報告していますが、モニターまでしてもらっていません。	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	出来る事を目標達成計画に掲げて取り組みを報告しています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	原子力災害については30K圏外になっていて、愛媛県地域密着型サービス協会から他施設の入居者受け入れを割り当てられています。				昨年7月の西日本豪雨災害発生後は、運営推進会議時に現状や活動、取り組み、対策について話し合っている。 自治会には利用者名簿を提供している。 利用者、職員、また、地域の人の命を守るための取り組みを今後も継続して行ってほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間想定でも避難訓練を行っています。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備の点検や保管している常備食の点検を定期的に行っていますが補充が出来ていない時もあります。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署立ち合いで火災避難訓練を行っています。 地域の方にも参加お願いしています。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	市の共同訓練に参加しています。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の方からの相談を受けたり電話や見学の方へも対応しています。				自治会には、年1～2回「ホーム見学のお知らせ」を回覧してもらい、その際に相談支援を行うことを知らせている。相談を受けたような事例はない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話や見学に来られた時に相談を受け支援を行っています。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	3B体操・歌の会等のレクリエーションの場として開放し、お祭りの時は休憩所として提供しています。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生ボランティアや幼稚園児の訪問を受け入れ協力しています。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	学校のからの体験学習生の受け入れをしたり、ボランティアの受け入れ、教会からの慰問の受け入れやバザーに参加したり、公民館活動へ参加するよう努めています。			△	中学生の職場体験学習を受け入れるにあたり、事業所の場を提供し、管理者は認知症について積極的にレクチャーして協力した。